

状態の変化と制度活用

和歴 年齢	平成16年 54～55歳	平成17年 56歳	平成18年 57歳	平成19年 58歳	平成20年 59歳	平成21年 60歳	平成22年 61歳	平成23年 62歳	平成24年 63歳	平成25年 64歳	平成26年 65歳
本人の病状	<ul style="list-style-type: none"> ●コンピューター携帯その他機械操作、運転が怪しくなる。忘れ物が増える。 ●10月大学病院にてアルツハイマー型若年性認知症の確定診断。 	<ul style="list-style-type: none"> ●アリセプトで多少元気になる。 ●3月家族で長崎旅行へ。 ●本人が突然辞表を提出し、退職。1日家で過ごすようになる。 ●都内大学病院に転院。 	<ul style="list-style-type: none"> ●大学病院での診察後、一人で秋葉原で買物をし、無事帰宅。最後の一人での電車旅。以降、出掛ける場所もなく大好きな本も読めなくなる。 ●大学病院の家族の会に参加、公的支援について教えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●大学病院内の家族の会で障害年金申請をアドバイスされる。 ●治験に1年間参加。あまり効果は実感できず、外出すると家に戻れなくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●大学病院・家族の会で介護保険申請のアドバイスを受ける。 ●好きな事への興味が失せ、区の高次脳機能障害のリハビリの参加。しかし、アクティビティができず、自信を失う。 ●認知症の人と家族の会に入会 ●日常生活に支障が始め、長時間一人にさせておけない。 ●治験終了。最後の診察でMMSE10点。この頃、家の中で迷子になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●アリセプト10ミリとなる。 ●うつ症状始まる。夜中に頭を柱に何度も打ち付けたり、歩行中に膝おれする。 ●アリセプトを5ミリに戻す。 ●思い込みも激しくなる。 ●トイレの場所が確認出来ず、排泄介助は外出先でも必至となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●公共交通機関を利用しての外出が困難になる。 ●自らの発話なく、ほとんど鸚鵡返し。意志疎通も難しく、コントロールが聞かない状態。 ●長時間の歩行は困難になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●リハビリパンツを使用し始める混乱と徘徊が続く。夜間眠らず家の中を歩き回る。家族は在宅介護の限界を考え始める。 ●新薬メマリイ使用開始。すぐに変化、効果が現れ、穏やかになり、笑顔も出る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●認知症専門デイサービスとショートステイを交互に利用し、家族も本人も比較的穏やかな時間を過ごす。 	<ul style="list-style-type: none"> ●メモリーの効果が薄れてきた。笑顔が減り無表情の時間が増える。運動機能の低下見られ、階段昇降が困難になる。自立歩行も難しくなる。 ●12月25日特別養護老人ホームに入所 	<ul style="list-style-type: none"> ●1月蜂窩織炎で発熱、通院治療 ●7月蜂窩織炎で発熱11日間入院
介護保険					要介護1	要介護3	要介護5	要介護5	要介護5	要介護5	要介護5
					若年性認知症専門のデイサービス利用開始。家族で迎送する。平行して週2回大規模デイサービス利用するが、2ヶ月後に小規模デイサービスに移る。	若年性認知症専門のデイサービスを本人が拒否するため断念。ショートステイ試し利用。 高額介護サービス費 の還付を受ける。	週5回小規模デイサービス利用し、加えて週1回の認知症専門デイサービス利用開始。 介護保険負担限度額認定証		4年間通所した小規模デイサービスを卒業し、認知症専門デイサービスとショートステイの2本立てサービスにする。	8月介護ベッドを導入。10月車椅子導入、介護タクシーと契約。	
障害福祉			自立支援医療・精神障害者保健福祉手帳申請。				精神障害者手帳1級認定。(障害年金1級に連動して。)		特別障害者手当 申請。認定される		特別障害者手当、返上
医療・年金		年金事務所に相談に行くも「よほど重度にならないと年金は下りない」と言われる。 失業手当 申請		障害年金 申請。7月より受給開始。2級。		厚生年金と障害年金の選択のため年金事務所に相談。障害年金選択。 障害年金 現況届け提出。	障害年金等級変更 申請。1級に認定される。	生命保険高度障害 申請。認定される。		9月、障害年金を選択	